

中国のなかの世界と 世界のなかの中国

—政治、経済、社会—

●講演：羽根次郎（中国研究者・明治大学政治経済学部専任講師）
●司会：池田五律（小論文科講師）

海洋進出などを理由に、中国に対して悪印象を抱いている人が少なくない。

一方、アジアインフラ投資銀行など、世界に対する中国の経済的影響力が高まる中、就職にも有利だと中国語を履修する大学生も多い。

いずれも漠然とした印象に基づくものにすぎない。一口に中国といっても、地域的にも、階層的にも、民族的にも、多様な世界がある。

中国のなかはどうなっているのか、世界のなかで中国はどのような存在なのか。

現地で長期の研究生活を送られた新進気鋭の中国研究者、羽根次郎さんのお話を伺い、中国の実像に触れてみよう。

参考資料 一帯一路構想とイメージ図



一帯一路は、2014年11月に中国で開催されたアジア太平洋経済協力首脳会議で習近平中国国家主席が提唱した経済圏構想である。中国西部から中央アジアを經由してヨーロッパにつながる「シルクロード経済ベルト」（「一帯」の意味）と、中国沿岸部から東南アジア、インド、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海上シルクロード」（「一路」の意味）の二つの地域で、インフラ整備、貿易促進、資金の往来を促進している。（ウィキペディアより）

●プロフィール 羽根次郎（はね じろう）

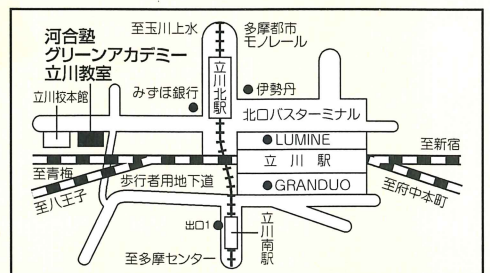
1974年横浜市生まれ。1996年に一橋大学社会学部を卒業。1年弱の会社員生活とその後のもラトリウム生活の後、1998年に一橋大学大学院入学、2010年に同大学大学院言語社会研究科博士課程を修了。大学院在学中の2003年に中国天津市の南開大学歴史学部に留学、2010年から2013年までは、中国社会科学院近代史研究所ポストドクター研究員を務める。中国滞在は10年に及び、2013年4月、愛知大学現代中国学部助教に就任、「グローバル人材育成推進事業」に関わる。2014年4月より明治大学政治経済学部専任講師。専門は中国近現代史、現代中国論、ヨーロッパ東洋学史、清代台湾史。



6月30日(火) 17:30~19:00
立川校 グリーンアカデミー 62教室

入場無料
申込不要

〒190-0012 立川市曙町 1-14-13
☎0120-198-640
●JR中央線・南武線・青梅線/立川駅北口より徒歩3分
●多摩都市モノレール/立川北駅より徒歩2分、立川南駅出口1より徒歩3分



※どなたでも自由に参加できます。